

三村良彦

聯隊機密第二七四號

左件傳達ス

明治三十八年四月十五日

聯合艦隊司令長官東郷平八郎

司令長官

參謀長

參謀

副官

副官

左ノ通り臺灣總督へ訓令セリ此旨心得ヘシ

艦隊司令長官司令官艦長司令其他防禦部長

ニシテ敵ノ東航艦隊ニ對スル準備必要上其臺灣沿岸ニ

於テ各地燈臺ノ臭燈ヲ不利益ト認メタル場合ニ臨機

燈臺臭燈ヲ一時若ハ相當ノ期間其燈光ヲ臭火セサ

ルコトヲ得セシタルニ付相心得得得得得得得得得得得

ヨリ當今ノ間之ヲ消光セシム

明治三十八年四月十五日 海軍大臣

聯合艦隊司令長官宛

乙隊機密第二四八号

四十八日

0851

司令長官

參集長

參謀

副官

豐信第
豐信第

電報譯

幾信者

軍令部長

比月五日 午前五時 五分 海軍省
三月三日 午前五時 五分 分台中尾安

巳月十五日 申時 五分度付

大連湾、水雷防備ヲ施スヘキ上日、午日
坂中義時持輝、友へ命令せり

0852

蘇 軾 蘇 軾 蘇 軾 蘇 軾

[illegible]

0853

司令官

與訓長

參謀

副

官房機密第四二五號三
 本月十百官房機密第四二五号ヲ以テ
 通牒シ我由中用トシテ將人整約セ
 第一種英兵提督船中當時仁
 名未詳ナリトモ向々取柄何セシモ大
 比ト因テ案ハあり通牒セ
 昭和四年四月二十六
 海軍次官 齋藤 實
 第二種海軍次官 齋藤 實



一、英王船

廣雅釋義二七六

1
松城の臺凡い子七ふと千六呎

斗二あり、千六のち都府陸宅

二、North Anglia

松城の臺凡い千四ふと十二呎

斗二あり、千四のち都府陸宅

三、Netherlon

松城の臺凡い千四ふと十二呎

斗二あり、千四のち都府陸宅

四、Putney Bridge

松城の臺凡い千四ふと十二呎

斗二あり、千四のち都府陸宅

但、松城の臺凡い千四ふと十二呎

斗二あり、千四のち都府陸宅

0855

司令官

参謀長

参謀

副官

出申

乙隊機密第二五三號ノ二
左ノ件通達ス

明治三十八年四月廿一日

第三艦隊司令長官上村彦之助

官房機密第四二五號

我海軍用トシテ購入契約セル第一種英炭搭載船ニシテ
未著ノモノハ別紙第十表ノ通りニ候条御了知相成度
此致及通達候也

明治三十八年四月十一日

海軍次官 齋藤 實

第三艦隊司令長官上村彦之助殿

未着英炭船 第十表

船名	搭載英炭量	佐世保着予定月日	納炭請願者
Clanndon	4800 ^{ton}	3-28	Strome & co.
Ratho	5300	4-10	磯野商会
Ripley	5000	4-10	Dorwell & co.
Newton Hall	5500	4-28	磯野商会
Coningsby	4150	4-13	高田商会
Beechley	5740	4-30	三井物産会社
Cairo	2875	4-15	範多商会
Saint Kilda	4700	4-20	磯野商会
Stiklestad	2800	4-8	高田商会
Howick Hall	4500	4-10	American Trading Co
Hilary	2148	4-10	Illies & co
Battersea Bridge	5124	4-14	"
Jeanne	2645	4-29	"
Gibraltar	5291	4-30	Feardley Richardson & co.
Saint Helena	5810	5-15	Farber Voight & co.
Watdon	5621	4-17 5-15	"
船名未詳	25000	五月中	国立公文書館 アジア歴史資料センター

司令長官

機密

機密

機密

機密

機密

機密第二七六號ニ

左件通達ス

明治三十八年四月廿八日

第二艦隊司令長官上村芳之助

官房機密第四二五號ニ

本月十一日官房機密第四二五號ヲ以テ通達ス我海軍

用トシテ購入契約セル第一種英炭搭載船舶中當時

船名未詳ナリシモノ内今般判明セルモノ左記ノ通ニ

條此段及通達ス

明治三十八年四月廿二日

海軍次官齋藤實

第二艦隊司令長官上村芳之助殿

一、英國船

Warren

搭載炭量凡二千七百六十六噸

末、四月三十日頃本邦着、豫定

一、全

North Anglia

搭載炭量凡二千四百六十二噸

末、四月三十日頃本邦着、豫定

一、全

Defferton

搭載炭量凡五千八百三十一噸

末、五月十日頃本邦着、豫定

一、全

Putney Bridge

搭載炭量凡五千五十六噸

末、五月三十日頃本邦着、豫定

但四隻方共横濱サニユルサニ元商會ヨリ佐世保
納入ス(キモノ)

0859

史料のたぐひ

聯隊機密第三一六號

別紙爲御参考及回附候也

明治三十八年五月二日

加藤聯合艦隊參謀長

昨年十二月吳海軍工廠ニ於テ施行セラレタル別紙試驗
ハ臆發原因調査トシテ砲身溫度ノ上昇ニ依リ彈丸ニ龜裂
ヲ生スルヤ否ヤヲ實驗スル爲メニシテ其成績表ニ使用セシ彈
丸、裝藥及毎發ノ初速等ニ関スル精細ノ記事ナキモ發
射回数ノ重ナルニ從ヒ砲底ヨリ測リタル彈底ノ距離ハ漸次増
加シ之ト共ニ壓力及ヒ初速ノ速減スルヨリ見レバ臆發ハ砲
身溫度ノ昇騰スルニ從ヒ漸次膨大シ從ッテ彈丸ハ所定
ノ位置ヨリ奥深ク裝填セラレ其結果藥室容積ヲ増
加シ延ヒテ彈丸ノ初速ヲ減少スルアラサト思ハルモノアリ若
シ然リトセハ砲身溫度ノ上昇ハ或ル時期迄ハ彈丸ノ初速ヲ

0860

増加スルモ其後ニ至レハ却リテ之ヲ減殺スルモノナリト謂フヲ
得ヘシ兎ニ角砲身温度ノ変化ハ彈丸ノ初速ニ至大ノ影
響ヲ及ボスモノナルヲ以テ戦闘ノ際多數ノ彈丸ヲ連續
発射スル場合ニ其初速ヲシテ努メテ均一ナラシムルタメ砲
身ヲ冷却シ温度ノ昇騰ヲ防止スル方途ヲ講スルハ極メテ
必要ノコトナリトス

(別紙)

明治三十七年十二月十四日施行試験成績(摘要)

使用砲具式四十五口径拾五呎速射砲

温度測定器ウォーターパイロメーター

氣温(摂氏)一〇・五

氣壓三〇・七

濕氣八五% 風向

風力四

発射間隔平均四十三秒

0861

發射回數

壓力(トシ)

初速(米突)

尾栓頭溫度

砲底ヨリ測リタル
彈底距離(米突)

一

一二四五

七三三九

四二

一二一四

一〇

一二九一

七三三九

四二

一二一四

二〇

一二五三

七三三九

七五

一二六六

三〇

一二一〇

七三七六

九〇

一三四五

四〇

一〇二五

七二八一

七八

一四六二

五〇

一一二七

七二八一

六九

一五〇四

第二十四ト第四十回ノ比較

壓力差(トシ)

初速之差(米突)

砲底ヨリ測リタル
彈底距離(米突)
即チ彈室內與
深ク入ル尺度

一三八(減)

一五八(減)

〇二九六(加)

明治三十七年十月十五日施行試驗成績(摘要)

使用砲具式四十五口径十五桤速射砲

溫度測定器攝氏寒暖計

汽溫(攝氏)三二 氣壓三〇・六

発射回数

二
四
六
八
一〇
一二
一五
〇
〇
〇
〇
〇
〇

湿度 四六% 風向 ~~北~~ 風力二

発射間隔平均二十八秒半

砲口 湿度(摂氏) 藥室

砲底(測リタリ) 彈底 巨砲(米突)

九	八	九	五	三	二	一	三	七	一	六	八	〇
九	五	三	二	〇	三	一	六	六	一	九	七	九
八	二	七	三	五	二	九	八	二	二	一	二	五
七	七	二	七	三	一	八	一	〇	二	二	五	一
六	八	二	三	八	一	〇	一	一	三	二	七	三
六	五	一	三	六	一	三	一	一	三	二	七	三
六	〇	五	一	三	六	一	一	三	一	二	九	九

第二十回ト第百回トノ比較

壓力ノ差(ト)

砲底ノ温度(米突)

三〇一減

〇・八三五(即彈室内奥深キル度)

乙未年

司金

司金

司金

隊機密第三

水防部鋼煉破滅後地方

聯合省令出在案

水防部鋼煉破滅後地方

日割歩破

一減後地方

津川水道大船倉山東

二日割

音音防部鋼煉破滅後地方

準備

七日時間八確定次爆破

作局更進

防部鋼煉破滅後地方

防部鋼煉破滅後地方

防部鋼煉破滅後地方

防部鋼煉破滅後地方

多クシテ防備固ク破壊シ其破壊孔ヲ修ス
同時ニ退寇の爲メ兵士大ニ危害ヲ減減セリ
凡そ其處ハ所修ス
之ハ小ニテ其日也

日ノ書

0865

乙隊機密第二九〇号

防備隊員名

西書架

乙隊機密第二人記号

卷之四

此五組區隊中、有市見番、欠リシ、此分派
 陸軍、爆破隊、該隊ヲ施行セヨ、ト決ニ付、モ、
 面、初、決、也

辛巳年五月

系謀長

劉氏

參

一 漆川小舟大瓶酒ノ小瓶ニ五日分ノ二日ノ水
酒酒酒酒ノ酒酒酒酒

但防密網層層，必以拒其與鄰。未始不
個密ヲ指ムルモ、人ヲ防セザルナリ。消滅瓦下
足ル

一、高爆破行フ

(雨天順延)

佐防部岡ノ爆破シ甚だ壞ルヲ檢テ下月
時ニ迄危カキヲ去ス危カキヲ減減ス
ル

0867

五期機密第廿七號ノ二

司令長官

參謀長

參謀

副官

機關長

乙隊機密第廿七號ノ二訓令水雷防備網

対ミ集形水雷頭部爆発試験施行地官制尚由

一、試験地 津川水雷大船島北東

二、日割 五日六日 防備網設方は該半備

七日 津糸

但し雨天中止

防備網設方は該半備 其有瑞ニ示され南東

ヲ揚揚スル者今ヲ付与ル及テ演習スルニ付

車両は防備網ヲ爆発ニ其破壊孔ヲ換フルト人々ハ速

度水雷及ミテ大危害ヲ試験スルニ止ル

0868

明治三十八年五月四日

課長試験委員 廣瀬順太郎

第三艦隊司令官上村定三殿

副中 関係向ハ所通達方可仕得取計相成度

此致即申奉也

0869

五原機密第七號

御

届

司令長官

參謀長

參謀

副官

機密

乙隊機密第二七號ノ三水雷防禦網。對シ奥形水雷頭部爆発試験委員中ニ海軍少佐田代巳代治全島内相太リ追加員條此段及御届也

明治三十八年五月四日發重無不如此

爆発試験委員廣瀬順太郎

第三艦隊司令長官上村彦之丞殿

海軍

各所
照
三
五
六

副官

監

機
關
長

参謀

参謀

参謀

参謀

参謀

司令官

事件ハ其後四七セリ
テ
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

乙隊機密第一六〇號ニ
出師準備及海上輸送ノ諸計畫並ニ其ノ實
施方法等ニ就キ今面ノ實戰ニ鑒ミ現行ノ規
程ニ修正ヲ加フルノ必要ヲ認メラルモノハ巨
細トナク講究ヲ遂ケ意見提出方軍令部
次長ヨリ申越相成候ニ付テハ右ニ関シ御意見
有之候ハ四月二十日迄ニ御提出相成度此段
依命申進候也

明治三十八年三月十九日

第二艦隊參謀長藤井較一

機長

副官

参謀

参謀

司令官

星

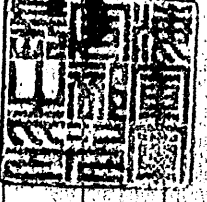
海軍 六四 附二

ふんしんりん ちんしんりん ちんしんりん
ちんしんりん ちんしんりん ちんしんりん
ちんしんりん ちんしんりん ちんしんりん
ちんしんりん ちんしんりん ちんしんりん

ちんしんりん ちんしんりん ちんしんりん

ちんしんりん ちんしんりん ちんしんりん

ちんしんりん ちんしんりん ちんしんりん



七隊機密第一六〇号

七隊機密第一六〇号

大本營海軍部

二月七日

0872

出所は片付及西の松を以て法印重
年より山出松方は其の如くとも用て実
致と堅きと成り、程程にけりかフル必
有と認るるに、そのまゝおとす海客より送
けり四月末より一先いそぎて
ふすは、依節申をてや

明治二十八年三月十日

あつちのうらな

法印重

大正十一年

副官

参謀

司令官

司令官

四戦機密第一二八號

古角

第四戦隊各機
白濁と云ふ
此方為ノ諺
國體を以テ
白濁と云ふ
此方為ノ諺
國體を以テ

第三艦隊司令官



第二艦隊司令官

海軍省

海軍省

海軍



2月

司合長
 大
 中
 小
 大
 中
 小

乙隊機
 三〇八号

第三艦隊司令官長官東郷

無線電信送電力増加、為第一艦隊第三艦隊
 司令官長官、司令官旗、旗二枚、一捕獲者備
 但現品、五月九日横須賀、第一東郷丸号
 佐世保海軍工廠造船部、進付書
 明治三十八年五月八日
 聯合艦隊司令官東郷



0875

上
の
部
に
あ
る
文
字

聯隊機密第三五三號ノ三
別紙甲號ノ通り吳工廠長へ及問合候處ニ
通り回答ヲ得矣ニ付爲念及御通知候也

明治三十八年五月十九日

聯合艦隊參謀長加藤友三郎

封
行

甲 號

黄海々戰ノ結果ニ鑑ミ砲身熱度冷却ノ必要ヲ感
シ近來各艦ニ於テ種々ノ意匠ヲ凝シ主砲々身外
面ヨリ絶ヘス海水ヲ注キテ熱度ノ上昇ヲ防カントスルノ
企テアリ然ルニ此方法タルヤ砲楯以外ノ露出部ニ冷却
ノ効ヲ奏スルノミニテ後部ハ單ニ備付洗滌機ヲ以テ
毎發内部ヨリ注水スルニ過キス砲身前後ニ於テ其冷
却ノ度自然均一ヲ欠キ多數淺砲ノ後鋼套接合
部等ニ不同ノ拉張ヲ来ストナキヤ掛念ニ堪ヘス右
ニ付貴官ノ御意見見奉知致度至急御回報煩シ
度ニ

乙 踞

岩淺射中砲身前部ハ内外ヲ冷シ後部ハ内部
ノミヲ冷シ淺射ヲ繼續シ砲身ノ耐力上差支ナキ
モノト認ム

0878

第九艦隊秘第九七号ニ

報告

本艦隊艦隊編成書より在之通、改ノ候、府此致及報告候也
明治三十八年九月二十日 於鎮西

第九艦隊司令河瀬三治



第二艦隊司令長官上村浩之丞殿

第一小隊

蒼鷹(番) 雁(番)

第二小隊

燕(番) 鶴(番)

機密第三三八号

海軍

376

0879

司令長官

參謀長

參謀

副官

聯隊機密第三八一號

艦隊ヨリ配付スル文書ニシテ秘若ハ極秘ノ捺印凡モハ
部外ニ對シ絶對的機密タルコトハ昨年来度々注意アリ
シトテ今更申ス迄モ無之事ト存候然ルニ此頃東京
某新聞記者カ秘印凡艦隊ノ摺物ヲ所持セシ趣其
筋ヨリノ通牒ニ接シ目下取調中ナルモ果シテ事實トス
ハ看過スカラサル義ト存候條尚ホ一層取扱ヲ嚴密ニ
シ秘密ヲ保ツ事柄ハ聊カタリトモ部外ニ漏洩スルコト無
之様御注意相成度此段申進候也

明治三十八年五月廿六日

聯合艦隊參謀長加藤友三郎

司令長官

参謀長

副官

第一五五

獨逸海峡付也。於軍艦發子ノ拿捕
 所、引渡ノ途中、於本年二月二十七日
 表下ノ沿岸、坐此ニ於テ、捕獲ニナル
 事、就テ、同船回航、要與ニタル海軍中人
 責任者、有無及其責任程度等、要シ
 調査スルニ決儀ト存ル。何子報告等
 之旨、如何ナルニ成ル。至急何子、復
 報スル。要スル。如也。

明治三十八年二月二十日

陸海軍大臣

陸海軍大臣

0881

第二艦隊参謀長藤井較一殿

海軍省軍務局長亦席



0882

司令官

參謀

參謀

副官

機密

聯合艦隊參謀長加藤友三郎

聯隊機密第四。五號

日本海々戰ニ於ケル我艦艇ノ損傷及戰略的行動
ニ就テハ部外ニ對シ嚴ニ秘密ヲ保ツヘキ旨特ニ通
達相成候ヘトモ猶ホ艦隊ノ配備編制陣形速力
針路兵器其他軍機ニ關スル事項ハ當然秘密ヲ
保ツヘキモノニ付心得違ナキ様部下一般へ御示
達相成度依命此段申進候也

明治三十八年六月八日

聯合艦隊參謀長加藤友三郎

第二艦隊司令部
八月八日

0883

機関長

副官

参謀

参謀

司令官

乙隊機密第四。四號

本職ノ旗艦ヲ一時船手ニ移シ本日午後二時幕僚引率同艦へ轉乘候條此旨心得シ

明治三十年六月十六日於C地矣

第二艦隊司令長官上村彦之丞

海軍

0885

梅

參謀



新



五十五張四等葉

為我耳解之也。一照台本。只个回字。一集
 个者。同上。只个回字。一集

三子令子ナ

多理是

隊機密第廿一六號

司令長官

七

聯隊機密第四七一號

左記傳達ス

明治三十八年六月廿三日

東郷聯合艦隊司令長官

參謀長

機密

參謀

副官

中

機關長

機密

官房機密第七〇五號

自今聯合艦隊所屬ノ軍艦ニ第一種炭煉(日本煉炭株
式會社製)ヲ第二種炭ト併用セシ得ル儀ト心得

明治三十八年六月十五日

海軍大臣

聯合艦隊司令長官宛

乙隊機密第四三三號

第二艦隊副官
六月廿三日受

0887

司令官

参謀長

参謀

副官

Handwritten signatures and stamps at the top of the document.

機密第四四六号

聯隊長友托

長官

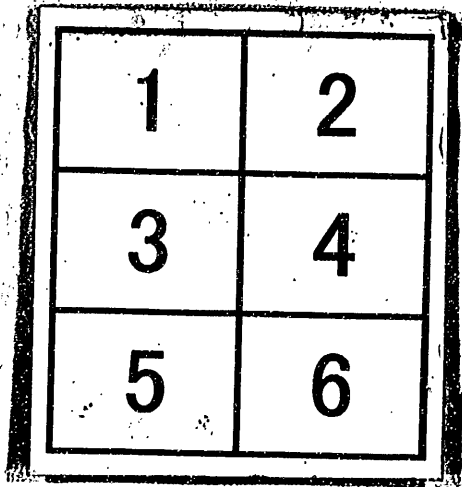
一、青島日本海軍第三戰隊航跡圖
聯隊員第三九号、依及進達候也

自午後一時
至七時
營業

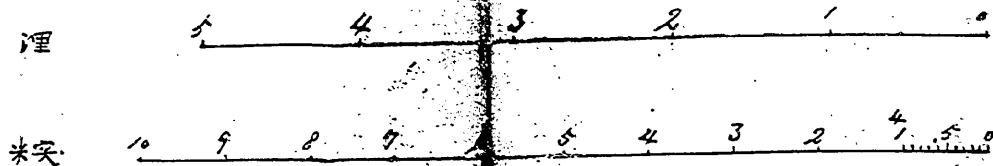
海軍

0888

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0889
0890
0891
0892
0893
0894

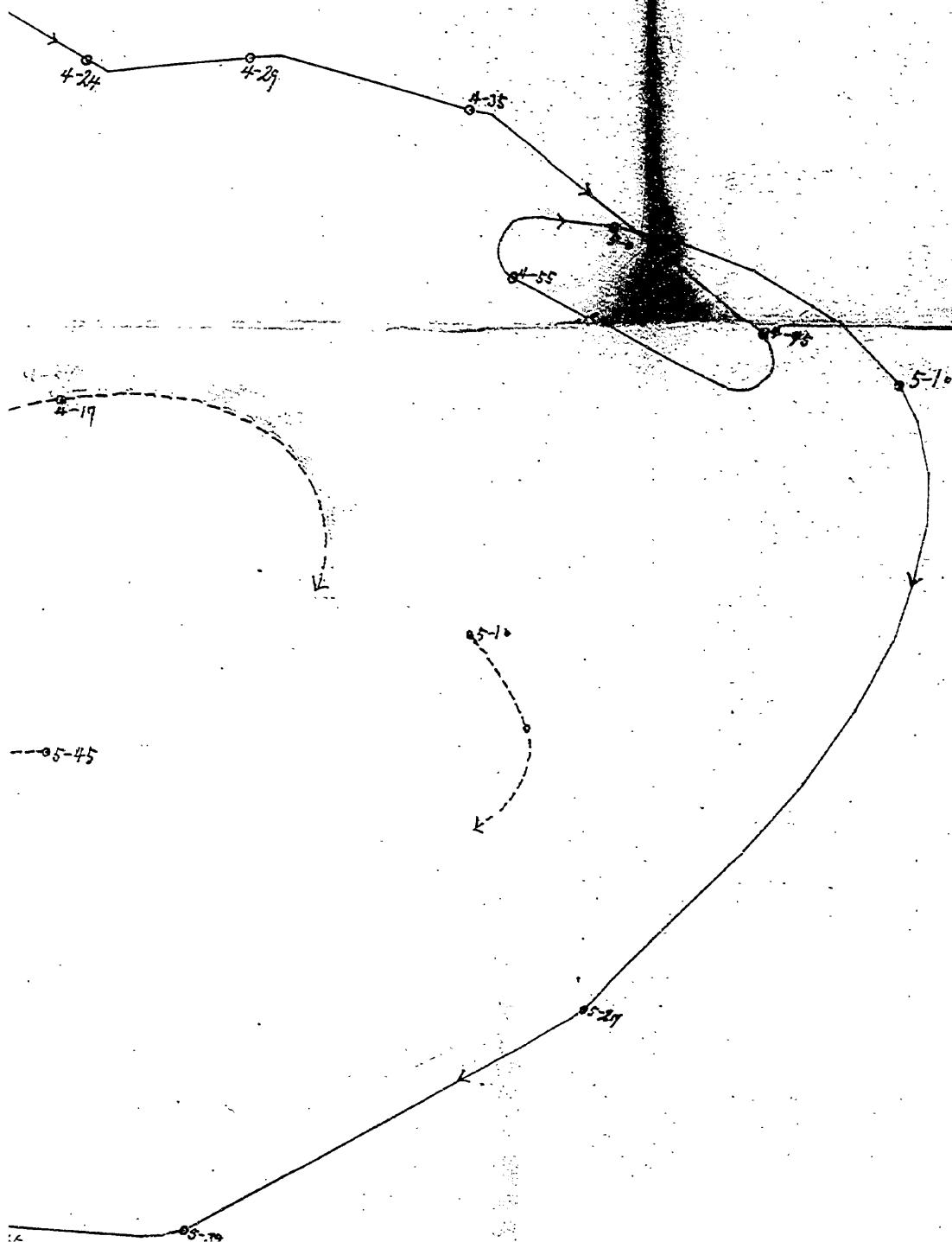


和

六月二十日聯隊長室(進達)ノ如

五月廿七日日本海海戦第三戦隊航跡図

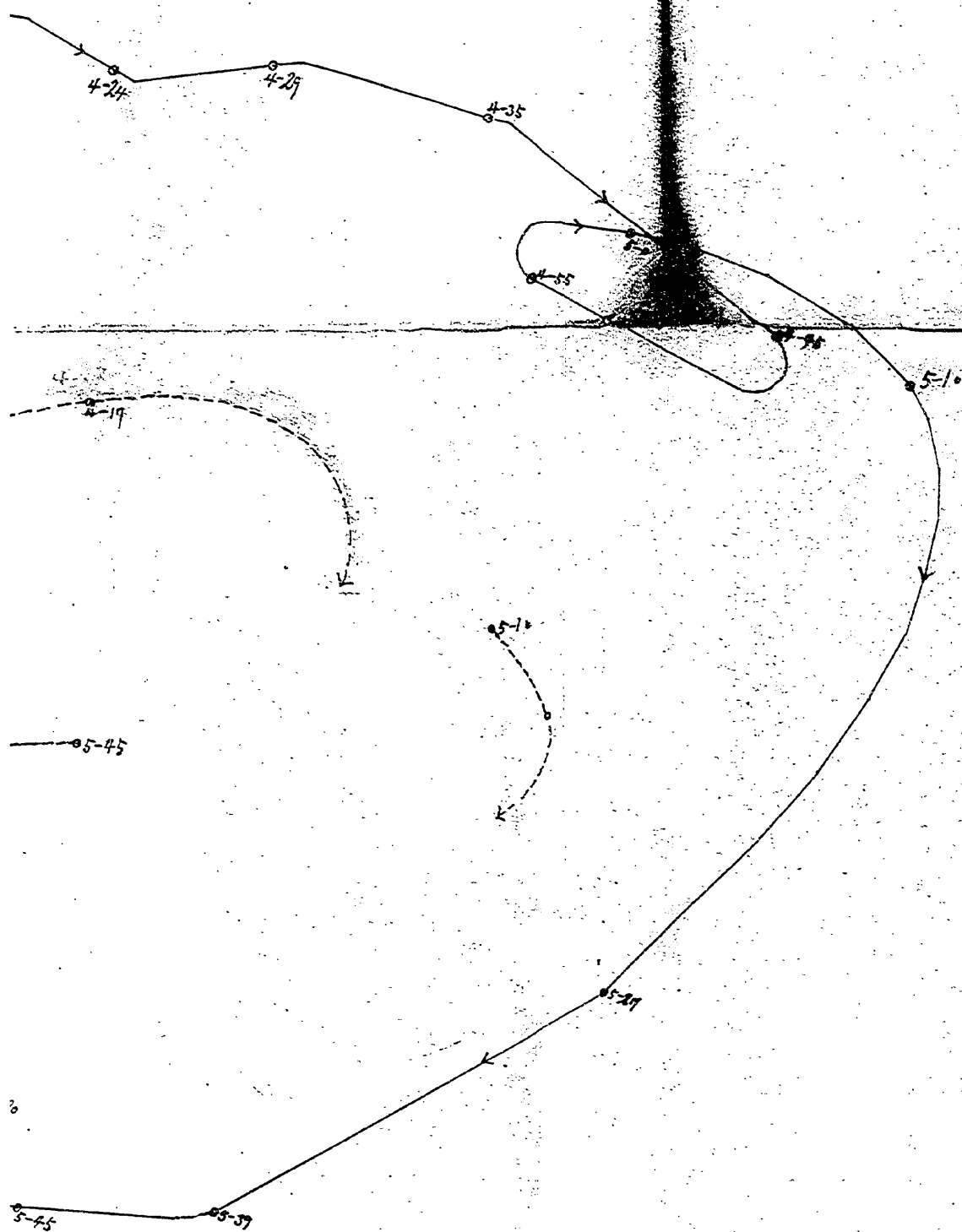
水國中敵艦隊航跡就テ戦闘初期ニ於テ
形既ニ混乱シテ定リテ且當時天候密濛ニシテ
望不良ナリシヲ以テ全然正確ナルモノト云ヒ難シ
展

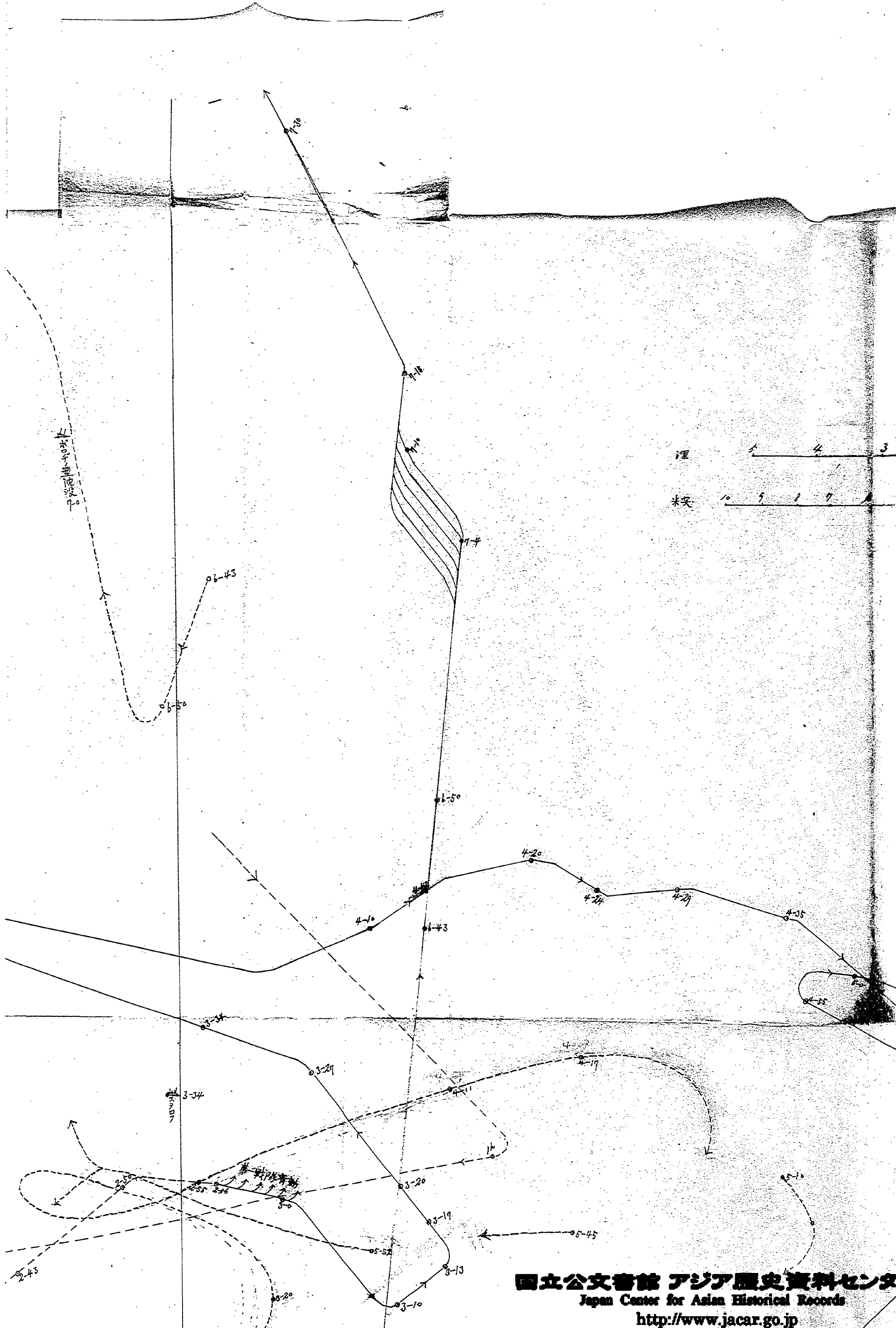


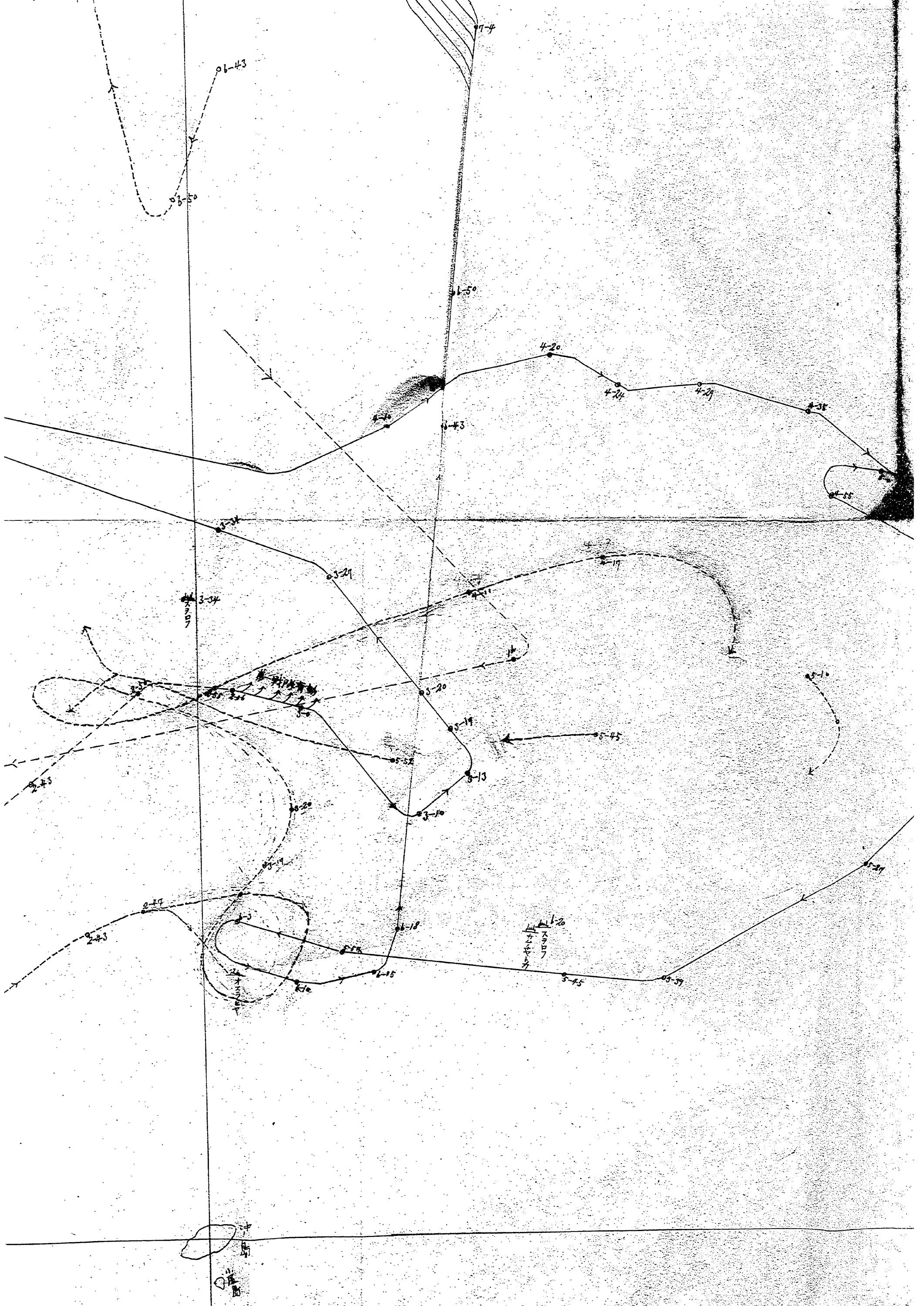
六月二十日聯隊位置(進達)如

月廿七日日本海海戦第三戦隊航跡図

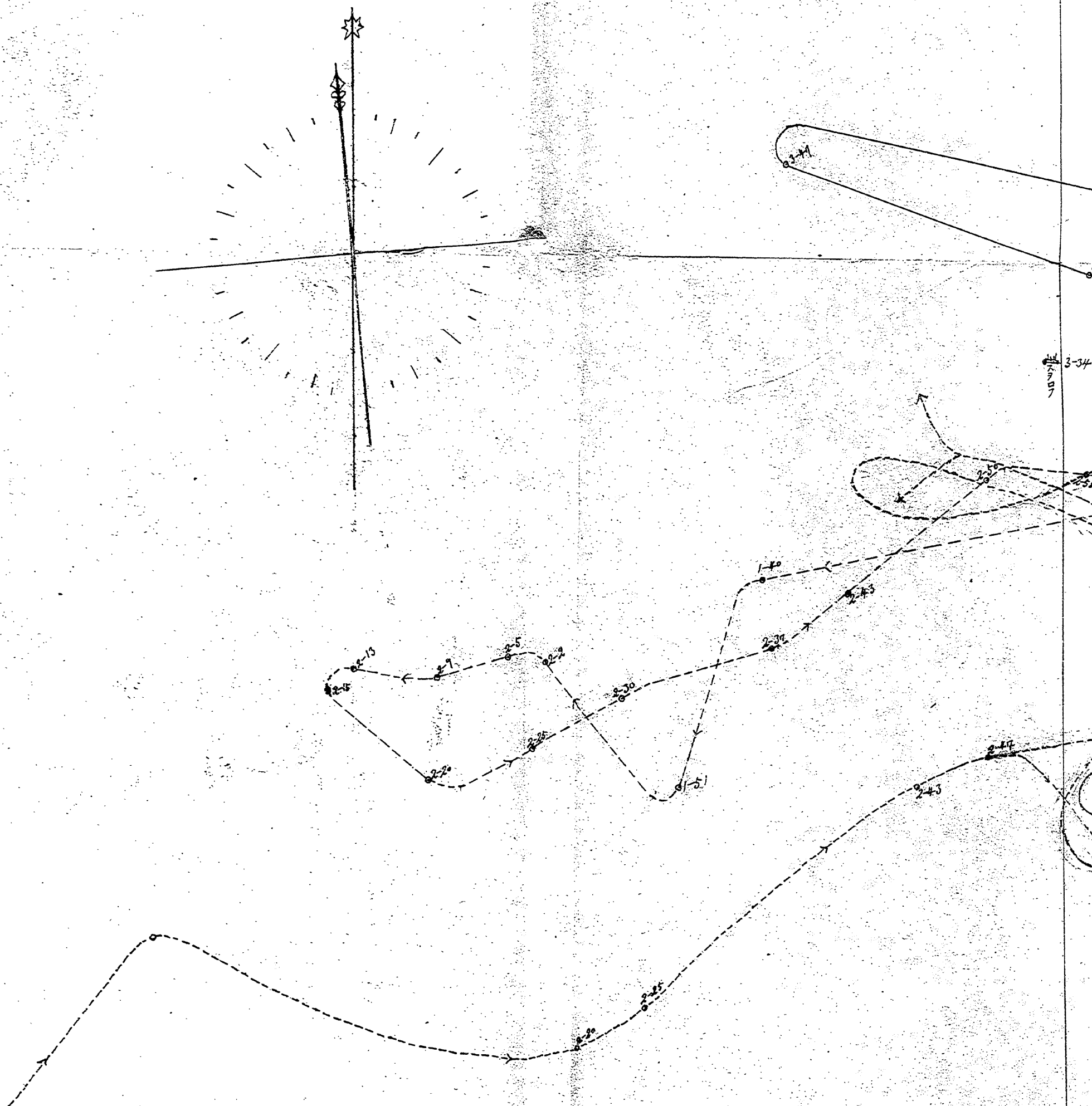
本國中敵艦隊航跡就ラハ戦闘初期於ニ
形既ニ混乱シテ定リナク且當時天候密雲ニシテ展
望不良ナリシヲ以テ全然正確ナルトモトモ難シ







沖島 $130^{\circ}5-58^{\circ}E$
 $34-14-36N$



司令長官

副官

参謀

副官

陸軍部 移集

本九分長海軍大尉柳原健雄考
案、便、大、時、限、作、受、説、以
主、事、連、の、移、集、也
明治三十八年七月七日

上長安

乙隊機密案四九五号

海軍

0895

司令長官

参謀

参謀

参謀

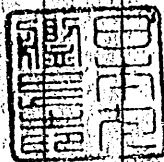
日本海軍機密第三五號三

別紙大巨離時限信管ニ関スル考案分
隊長海軍大尉柳原繼雄ヨリ提出シテ
此段進達候也

昭和八年七月五日

第二艦隊司令長官上村虎之丞 殿

日本海軍長海軍大佐成川 揆



海軍

横濱分館印刷



0896

司令官

參謀長

參謀

副官

聯隊機密第五〇五號ノ二

左ノ件傳達ス

明治三十八年七月十九日

聯合艦隊司令長官東郷平八郎

官房機密第八二五號ノ二

樺太ト内地トノ間ニ發着スル電報料金ニ関シ左ノ通
リ通信者ト協定セシ旨陸軍者ヨリ通牒有之矣
此旨心得ニ

一内地ト樺太トノ間ニ發着スル軍事電報料金ハ一般

内國軍用線托送之例ニ依ル

二樺太發内地着ノ軍事電報料金ハ一月分ヲ取纏メ

九
局ノ請求ニ依リ陸軍會計監督部ニ付テ

乙種機密

七
里
八

0897

拂フモノトス

三、軍事電報以外ニ幾信ヲ許可シタルモノニシテ内地着
信ノ電報料金ハ受信者ヨリ支拂フモノトス

明治三十八年七月十四日

海軍大臣

聯合艦隊司令長官宛

0898

副官

電報譯文 於

発信時刻

六月廿四日 午前十一時五分

受信時刻

発信局

佐賀

受信局

発信人

佐賀縣知事 長

受信人

金武内 昭吉 氏 持子 行

高友

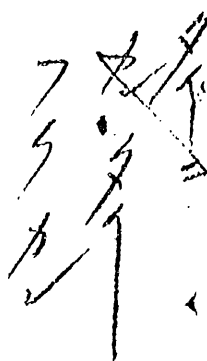
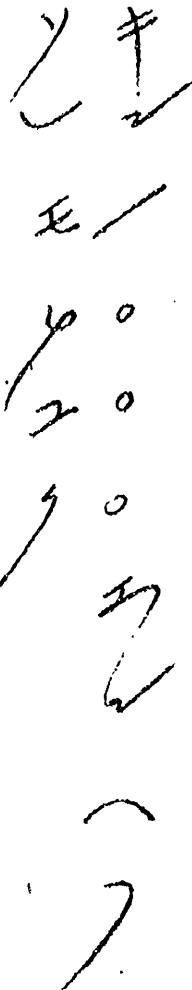
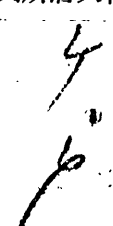
(指定)

海軍

月 日 前 時 分

0899

紙 達 送 電

局 著		局 發		名 氏 所 居 人 信 受	
當 務 者	受 信	付 送	第		
	午 時 分	午 時 分	月 日 號		
	字	分	局 報		
			定 指		
				名 氏 所 居 人 信 發	
					
				注 意 他人へ宛たる電報の配達を受けたる者は其由を付箋し直ちに之を配達したる者へ直送し又は手渡しすべし其受取本番 號	
				著 信 第 3 號 印 附 日 局 著	
事 記					

0900

